



つどえ～る！

特集 まちづくりシンポジウム2004



CONTENTS

<特集> まちづくりシンポジウム2004	2-3
<市町村探訪> 「市民と行政による協働のまちづくり」(鹿嶋市) ～鹿嶋市まちづくり市民センターが始動して～	4-5
<まちづくり団体の取り組み>～こんなことやってます～ 「NPO法人茨城の暮らしとまちづくりを 考える会(WILL)」 ～暮らしに密着した景観は美しい～	6-7
<まちづくりアラカルト> 交通渋滞緩和に向けた取り組み	8-9
<街角レポート> くじら屋(常陸太田市)	10
<情報スクラップ>	11-15
<お知らせコーナー> まちづくりアドバイザー制度	16

さる10月23日、土浦市の県南生涯学習センターで「まちづくりシンポジウム2004」を開催しました。

今回のシンポジウムは、「歴史的資源を生かした景観によるまちづくり」をテーマに、基調講演、パネルディスカッションを行い、約300名の市民の皆さんや行政の担当者の方に参加いただきました。

あわせて、今年度の茨城県うるおいのあるまちづくり顕彰事業の表彰式が行われました。

Vol 15

平成 16 年 12 月 24 日



特集 まちづくりシンポジウム2004

基調講演

「歴史的資源を生かした景観によるまちづくり」
講師 筑波大学名誉教授 黒川 洸

【要旨】

日本のまちづくりは、明治以降に始まる。江戸時代までは、鎖国政策により、港湾や橋などの基盤整備が全くされていなかったが、明治になり、港湾、鉄道が整備されるようになった。戦後の復興を経て、'60年代に自動車交通手段の主流となり、郊外に大きなSCができ、中心市街地が空いてきてしまうという現象が起きてきた。また、全国画一的に事業が行われた結果、各都市の個性が失われてきてしまった。しかし現在、景観緑三法が制定されるなど、これまでの公共事業のあり方を見直し、自然やまちの美しい景観を大切に、守り育てていこうという考え方になってきた。

そこで、まちの美しさの基調とは何か。それは、地域文化に裏打ちされた個性である。その地域の文化を生かすようなまちづくりを考えることが重要。

茨城県はどうかというと、色々と歴史的資源があるが、それを生かしていない。もっと県民が誇りを持つこと、もてる仕組みを考えることが大切である。土浦は、水郷のまちといわれていたが、現在はその名残がない。それを感じられるものを何らかの形で残してはどうか。

美しいまちを人を引き寄せる。もう一度訪れたい、住んでみたいと思わせるようなまちづくりが面白い。オンリーワン、日本でここしかないというようなものを作るのもひとつのアイデア。

ヨーロッパでは、看板、ノボリがない。個人の家々に統一感がある。それが、まちなみの美しさにつながっている。これは、まちのみんながまちづくりをどうしようと取り組まないといけない。

最後に長野の松本の事例を紹介。松本城があって、その周辺に都市計画道路、街路灯を造った。そのときに従来の杓子定規の整備でなく、松本を愛する市民、役所の色々な部署が様々なアイデアを出し合っただけでつくった。自分たちが誇れるものをつくれれば、それが、魅力あるまちづくりにつながっていく。

パネルディスカッション

・コーディネーター

渡 和由（筑波大学芸術学系助教授）

・パネリスト

竹中 紀博（土浦市町並み景観まちづくり委員会委員）

中島 裕一（土浦青年会議所理事長）

中村 眞紀子（茨城県建築士会土浦支部理事）

吾妻 周一（ディスカバーまかべ副会長）

砂田 元（土浦市助役）



< パネルディスカッション >

まず、コーディネーターの渡先生から、「歴史的資源を活かした茨城ニューまちづくり」～若い（気持ち）人材にアピールするイカしたまちづくり～と題して、江戸、長浜などの事例を交えながら、お話をいただきました。人が集まるまちの共通項は、魅力的なコンテンツ、開放的でインテリアが見えること、人が歩いて座る場所があること、いい感じのカフェがあることなど、魅力あるまちづくりについて紹介していただきました。

つづいて、パネリストの皆さんから、ご自身の活動、まちづくりへの思いなどをお話いただき、土浦市や真壁町の歴史的資源を生かしたまちづくりなど、実践事例を踏まえながら、意見交換を行いました。まちづくりには、市民の合意形成、市民が主役となって取り組むこと、人づくりが大切、などの提言がされました。



平成 16 年度茨城県うるおいのあるまちづくり顕彰事業 ほう賞受賞者 【まちづくりグッドサイン賞】

【まちづくりグリーンリボン賞】

- < パートナーシップ事業「赤羽緑地整備」 >
～市と住民の協働による自然観察公園の整備～
受賞者 赤羽緑地を守る会
日立市
- < ROYAL GARDEN CASAHARA >
～まちづくりの発想に基づく良質な賃貸住宅の建築～
受賞者 金澤 應
大和ハウス工業（株）茨城支店
- < 烏山一・二丁目地区における地区計画の検討 >
～住民主体で行われた地区計画の検討・策定～
受賞者 烏山一丁目地区計画検討委員会
烏山二丁目地区計画策定推進委員会
- < 夢 AKARI 事業 >
～地域住民によるイベントの企画立案から運営まで～
受賞者 夢 AKARI 事業実行委員会
- < ふれあいセンター「ながみね」の建設 >
～広く市民の交流の場となる複合型福祉施設の建設～
受賞者 土浦市



< パートナーシップ事業「赤羽緑地整備」 >



< ROYAL GARDEN CASAHARA >

- < 県道新川江戸崎線（思いやり道路）のサイン >
～村のシンボル道路に整備された統一サイン～
受賞者 桜川村
- < 「キャレ・ヘアー」木製サイン >
～住宅地にある落ち着いた雰囲気サイン～
受賞者 キャレ・ヘアー
太陽工房



< 「キャレ・ヘアー」木製サイン >

うるおいのあるまちづくり顕彰事業とは
県では、まちづくりについて県民の方々の理解と協力及び意識の高揚を図ることを目的として、まちづくりに功績のあった方々を表彰しています。

これは、さまざまなまちづくり事業を実施した方や、優れた都市景観の形成に寄与した方などを「まちづくりグリーンリボン賞」として表彰するとともに、景観に配慮した屋外広告物を設置した方を「まちづくりグッドサイン賞」として表彰する事業です。

おわりに

今回のシンポジウムには、約 300 名の市民の皆さんや行政の担当者の方々にご参加いただきました。基調講演やパネルディスカッションをとおして皆さんのまちづくりへの関心が高まり、今後の取り組みにつながっていくことを期待しています。